



何事も話して、話し合っ どこよりも安全でおいしい豚肉を 届けるために。

(有)吉野ジーピーファーム 吉野 聡子さん

よしの・さとこ ●結婚後、夫とともに実家の土地を開墾して養豚場を建設。
1997年に会社を設立し、専務取締役役に就任。2012年より岐阜県女性農業
経営アドバイザー、2022年にはGLAMAいきいきネットワークの会長を務
めた。同年には第51回日本農業賞個人経営の部で大賞を受賞。

【生産物】 養豚
【営農地】 高山市漆垣内町、大野郡白川村飯島、中津川市落合
【概要】 飼育頭数10,500頭(高山農場はリニューアル中)
【営農開始年】 1989年～

高山市、大野郡白川村、中津川市に農場を持つ、吉野ジー
ピーファームは、吉野さん夫婦が土地の開墾から築き上げた
養豚会社です。開業当初から夫婦対等な合意制の経営を実践。
抗生物質・合成抗菌剤を一切使用しない難しい飼育に挑みな
がらも、ときには夫婦で朝まで話し合い、安全安心でおいしい
豚を届けようと尽力してきました。2022年には日本農業賞を
受賞。頼もしい息子さんたちも加わり、地域と連携した循環型
経営に取り組んでいます。

夫婦でゼロから 養豚農家をスタート

聡子さんと夫の毅さんは1986年に結婚。二
人が養豚を始めたのは、毅さんの熱い思いが
きっかけでした。

毅さんは畜産関係の大学に通っており、先輩
の実家の養豚農場を訪れた際、近代的な設備
を目にして「自分もいつかこんな養豚をやりたい
」という思いを抱いたそう。卒業後は高山市
農協(現JAひだ)で養豚を担当。養豚農家と日々
接する中で、病気対策が最大の課題だと強く感
じ、自ら養豚農家となって本気で向き合おうと
一念発起。結婚した聡子さんにも思いを伝えま
した。不安はありつつも「主人がやりたいのなら
」と、自然と心が定まったという聡子さん。所
有する山を開墾し、その間伐材を使って豚舎を
建設。89年にスタートを切りました。

毅さんに学びながら、聡子さんも豚の世話か
らお産の補助まで奮闘。97年には規模を拡大し
て有限会社吉野ジーピーファームを設立。その
際、毅さんの提案で「夫婦合意制」とし、夫婦が



対等な立場で会社を経営していくことを決めま
した。「一緒に考えてやっていきたいと言ってく
れた通り、主人だけで決めてどんどん進むこと
はない。何かあれば『どう思う?』と相談してき
て、二人で話し合っ決めていきます」と話す聡
子さん。互いを尊重し、真剣に経営に向き合っ
てきました。

完全無薬に挑戦 安全とおいしさを追求

病気対策を徹底するため、抗生物質、合成抗
菌剤等をいっさい与えない無薬での肥育に挑
戦。当時は国内でほとんど例がなく、大きな壁
がいくつも立ちはだかりましたが、一つ一つク
リア。衛生管理も徹底し、完全無薬に成功、豚熱
の発生もなく安全安心の養豚経営を達成して
います。

さらに二人がこだわったのは「味」。実は聡子
さんは昔から肉が苦手。肉好きの毅さんが満足
しても、聡子さんは柔らかさや舌ざわり、臭みな
どをシビアに突き、「まだまだだと思う」と遠慮
なく意見しました。これに火が付いた毅さんは
必死に試行錯誤。2011年、個人ブランド豚「飛
騾旨豚」を口に含んだとき、聡子さんは「あ、こ
れおいしい」と自然と発しており、「やっと自信を
持って売りだせる」と安堵したといいます。

14年には中津川市に中津川農場を建てて、
特産の栗を飼料とした「栗旨豚」を、20年には大
野郡白川村に白川農場を建てて「結旨豚」を販
売開始。農場の分散は病気発生時の拡大防止

になるほか、雇用や特産品の創出という点で地
域活性化に貢献できます。飼料やたい肥を地域
の農家と連携して循環する経営システムも築
いています。

数々の賞を受賞 話し、支え合った35年

これまでの取り組みが認められ、2022年には
日本農業賞(NHK、JA全中主催)の個別経営
の部大賞、同年には農林水産祭(農水省、日本
農林漁業振興会主催)の畜産部門で内閣総理
大臣賞を受賞。県内では24年にも県畜産共進
会(県畜産協会、JA全農岐阜主催)の肉豚の部
で優等賞1席を獲得するなど、目覚ましい活躍
を見せています。

ともに歩んできた35年を振り返り、「ちょっと
したことも二人で一緒に考えて進んできた」と
聡子さん。夜な夜な話し込み、白んだ空を見上
げたこともあったとか。岐阜県に豚熱の脅威が
襲ってきたときは、県養豚協会の会長として寝
る間も惜しんで県内を駆け回る毅さんを、聡子
さんが運転手となって支えました。「これからも
何事も話して話して、話し合っ、前へ進んでい
きたい」と語ります。現在、豚の肥育管理は主に
次男三男が担い、夫婦は販売促進や対外交渉、
配達などを担当。県内外のイベントなどにも積
極的に出向き、さらなるステップアップを目指し
て進み続けています。



新飼料を開発、徹底した衛生管理で無薬肥育を達成

当初から低薬で育てていた夫婦。それを見た関係者から「ゼロでもできるのでは」と提案され、2002年から試験的に開始。当時は抗生物質
や合成抗菌剤などを含まない飼料はなく、飼料会社に交渉し、専用の製造ラインまで作って無薬飼料を開発しました。また病気は何よりも「持
ち込まない」ことが重要だと考え、豚舎に立ち入る際のシャワーや運搬車両の消毒、豚関連の別施設に行った場合は72時間以上の出入り禁止
など、衛生管理を徹底。これらにより、事故数の少ない無薬飼育が可能となりました。「うちの豚は出荷体重まで育つのが通常より短い、これ
も元気の証拠。元気な豚は当然おいしい」と毅さん。安全とおいしさをとことん追求し、たどり着いた形です。

(有)吉野ジーピーファームの紹介

精肉は近隣のスーパーや精肉店で販売。一部は東海圏にも出荷されています。カツ丼などお
いしい料理となって味わえる飲食店も。フランクフルトやまんじゅう、カレーなどの商品を展開し、
イベントでの販売やお土産として喜ばれています。女性スタッフも複数いる同社。聡子さんの提
案で、豚舎を出てシャワーを浴びたあと、身支度できるように更衣室に鏡付きのドレッサーやドラ
イヤーを設置するなど、女性が働きやすい環境を整えています。

吉野ジーピーファーム TEL. 0577-33-0336(本社)
高山農場(本社) 高山市漆垣内町 1064
白川農場 大野郡白川村大字飯島字下田 1129
中津川農場 中津川市落合字平石 1339-13

